



【従来の待機児童対策だけでは変わらない】

これまでの待機児童解消策は、保育所の増設や定員増、保育ママの導入など、「保育を受けられる子どもの数を増やす」ことに主眼をおいてきました。しかし、結果として一旦数を減らすことはできても、完全に解消することはできません



【待機児童の捉え方を変え、多様な子育て支援を!】

子育て家庭が、なぜ子どもを保育所に入れたいのか、その理由を分析し、「保育所に入れる」という選択肢以外の方法も選べる、多様な子育て支援策を提示して、待機児童の解消につなげることが急務であると考えます

【こんな施策も検討できます!】

現在、区立保育園の、園児一人あたりの保育に要する経費は平均月額約17万円(年額約210万円)ですが0歳児では月額約51万円(年額約615万円)です

例えば、経済的な理由で0歳児を保育所に預けているけれども、可能ならば、家庭で子育てをしたいと希望する世帯に対し

- ・平均的な育児費(ミルクやおむつなど)月額約2万円
- ・30代女性の平均月収約25万円の7割の月額約18万円

合計子ども一人当たり月額約20万円程度の公的助成をした場合、保育所での保育経費に比べ、公費の支出は半分以下となり、同時に希望する形での子育てが可能になり、「待機児童」もひとり減ることになります。

子育て支援策は、子どもの立場に立ったものであるべきです。

親と子がともに過ごせる時間は、意外と短いもの。一番大切なことは何か、もう一度、考えてみませんか



練馬区議会議員 第五十九代議長 関口かずお

自民党

練馬区議会議員
セ 第五十九代議長
きぐち

副幹事長・監査委員

議会運営委員会 委員

常任委員会 区民生活委員会 委員

特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員

各種委員会 民生委員推薦会、土地開発公社評議員会

ご相談は… 関口かずお 事務所

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

今から三十年ほど前、駆け出しの議員だった私は、区政や議会、行政について語り合える先輩や仲間たちと、ある蕎麦屋を訪れた。その時分は、とにかくうまい蕎麦と日本酒、仲間たちとの語らいに夢中になつたものだ。しかし、数年前、その蕎麦屋を再び訪れて、変わらぬ蕎麦のうまさもさることながら、なにより「空気」がいい、ということに気づいた。

自分のベースで、酒を楽しむもよし、蕎麦を食べるもよし。その店の中に身を置いて、とても心地よく、なにより一番いいのは、店主のお顔である。蕎麦の味の丸さ、空気のおだやかさそのままの、まなざしをされている。それ以来、月に一度は時間を作つて、その店のすべてを味わいに行くようになった。

そうするうち、店主や奥様と、言葉を交わすようになり、店主と私は同年であること、四十年前に、サラリーマンから蕎麦屋へ転身したこと、日本酒がとてもお好きであること、など、お互いに何となく、相通ずるものを感じるようになつた。以来、店を訪れるたび、自分の目指す蕎麦を打つ姿に、私も負けずに、政治家としてさらに精進しなくては、と、おもいを新たにしてきたのである。

二月、人づてに、今年の九月いっぱいで店を閉めるのだと聞いた。何かあったのだろうかと気をもみながら、先月ようやくお会いすることができた。変わらずおだやかなまなざしのご店主は、

蕎麦屋のほかに、まだやりたいことが、あるんですね

やるなら、今しかない、とおもつて決めたことです

何をするかは、まだ、ナシショです

そう言って、静かに、でも、ちょっといたずらっ子のように笑う。隣の奥様も、蕎麦屋を始めたときと同じ、やると言つたらやるんだから、仕方ないですね、と微笑んでいる。この店の蕎麦だけでなく、この空気を、もう一度と味わえなくなるという寂しさを感じながらも、同年のご店主の、今、また一から「やりたいこと」に向かおうとする気力と姿勢を前に、負けられないぞと、むくむく闘志が湧いてきた。ならば私は、これからも政治家ひと筋に全うするのだ、と。

私は、十期目の議員である。多選や年齢について、とやかく言う向きがある」とも承知している。しかし、これまでの経験とともに、年齢を重ねた今の私にだから持てる視点、考えを活かすことこそ、私の役目だと信じている。政治、経済、社会保障、災害からの復興と、今の日本は、様々な問題を抱えている。政治家として、自分はそれらにどう立ち向かうのか。私の大切な蕎麦屋が店を閉める九月までは、蕎麦と空気を味わい、心に刻み、英気を養うことにしてよう。

大切な蕎麦屋の店主巴学のじ